

2016年度三重大学附属図書館研究開発室 事業報告

1. 附属図書館及び環境・情報科学館の学習支援環境の整備・支援

事業1の計画は、附属図書館及び環境・情報科学館における新しい学習空間やサービスについて、利用実態を明らかにするとともに、望ましい施設・設備や運営のあり方を検討することである。2016年度には、附属図書館のBIMデータから抽出した3次元の情報をもとに作成した複数の図書館の案内図についてアンケート調査を実施し、3次元の案内図が利用者の理解を助けるものであることを明らかにした。その成果については『医学図書館』（2016年9月に発行）の論文として発表した。これに加えて、ラーニングコモンズにおける学生スタッフによる学習支援の計画を作成するために、先行事例である立命館大学、同志社大学、大阪大学のラーニングコモンズの訪問調査及び聞き取り調査を実施した。また、快適な学習支援環境のあり方についての知見を得るために、新しい学びの空間として設計されたフィンランドのヘルシンキ大学の附属図書館の訪問調査を行った。（加藤・和気・長澤）

2. 学術情報リテラシー支援

事業2の計画は、アクティブラーニング型授業を含む多様な形式の授業のための情報リテラシー教育のデザイン、教育方法、評価方法のあり方、それにとまなう教員と図書館員の連携のあり方を検討することである。2016年度には、アクティブラーニング型授業における情報リテラシー教育や図書館サービスの位置づけについて附属図書館の関係者と共有した。そして、学生がアクティブラーニング型授業と図書館サービスの関係について理解を深めることを目的として、問題解決型の学習プロセスと利用できる図書館サービスの流れについて、附属図書館の図書館員と研究開発室の教員が協働して「アクティブラーニングと図書館」というマップを作成し、図書館報である『学塔』（2017年4月に発行）に掲載した。（長澤・和気）

3. 図書館サービス向上のための大規模図書館業務データ分析

一昨年度からの継続調査として、2013年度から2015年度の附属図書館および医学図書館の利用データ（入館および貸出）の集計および分析を行っている。新規調査として、九州大学附属図書館の利用データ（2013-2014年度）との比較を通して、複数大学図書館における利用パターンの分析を行った。成果は、2016年度日本図書館情報学会春季研究集会にて口頭発表を行った。主な結果として、1)入館・帯出の大部分を学部学生が占め、修士・博士と順に低下すること、2)文系の学生が理系の学生よりも課程にかかわらず帯出していること、3)帯出図書の内容のほとんどは専門書であるが、学部学生が娯楽書を、修士課程が実用書を多く借りていることがわかった。（三根）

4. 学内の学術雑誌論文利用のコスト分析

三重大学における学術情報の受発信にかかる総コストを把握するために、過去三年分

(2014-2016) の 1) Web of Science を利用した論文執筆数および OA 論文 (APC 総額) の集計, 2) ILL トランザクションの分析 (件数, 日数, 費用), 3) 数理最適化による電子ジャーナル契約タイトルの検討を行っている (現在進行中)。(三根)

5. 附属図書館所蔵資料に関する調査研究

前年度に引き続き三重大学附属図書館所蔵の和古書の調査と整理を行った。具体的には、未整理図書の OPAC への登録のため、学術アドバイザーの中京大学中川豊准教授とともに、和古書の実物をみてデータベースの作成を実施した。データベースの作成は来年度も継続しなければならないが、資料調査の成果として「伊勢志摩」展 (2016.5.19~2016.8.9) を開催した。今年度の展示は一回限りであったが、大型の地図 2 点を含み、また館内に関連図書館陳列棚を設けるなど、通常に比べて大型の展示であった。同年に行われた伊勢志摩サミットの「伊勢志摩サミット三重県民会議応援事業」でもあり、本学から伊勢志摩サミットへの貢献ができた。(吉丸)

6. 附属図書館及び環境・情報科学館の学習支援環境の整備・支援

画像によるプライバシーに配慮した図書館施設の利用状況調査の基礎的検討を行った。環境情報科学館 3 階ラーニングコモンズで撮影に同意した学生被験者を撮影した防犯カメラ映像に対して、人物の追跡、動作解析の予備実験を行った。映像のフレームレートが低く、低画質であるため、現時点では正確な解析が困難であり、今後、さらなる手法の改良が必要である。(大山)

7. 附属図書館の職員のためのスタッフ・ディベロップメント

事業 7 の計画は、図書館職員への聴き取り調査や学生懇談会で明らかになったニーズをもとに、必要なセミナーやワークショップなどの研修を実施し、その中で附属図書館の課題について検討することである。2014 年度に実施した利用サービスの担当者への聴き取り調査及び学生懇談会によって得られたデータを整理して、必要になる SD のテーマを検討した。そして、2016 年度には、附属図書館の時間外開館の職員 (学生アルバイト) を対象として 6 月に「大学図書館が提供する学習支援サービス: 大学教育改革の仕組みと大学図書館の機能の強化」についての研修を実施し、全職員 (学生アルバイトを含む) を対象として 3 月に「大学教育改革における大学図書館の役割: 情報リテラシー教育」についての研修を実施した。これと並行して、情報リテラシー・サポート・ワーキンググループを編成し、これまでに明らかになった課題を具体的に解決していく体制を整備した。(長澤・和気)

室員の活動

【地域貢献】

・長澤多代 桑名市教育委員会 図書館協議会委員 (副会長)

【図書等】

- ・長澤多代「Q44 ラーニング・コモンズを、どのように活用することができるのでしょうか。」，佐藤浩章，中井俊樹，小島佐恵子，城間祥子，杉谷祐美子編『大学のFD Q&A』玉川大学出版部，2016，p.93-94。（高等教育シリーズ，171）
- ・長澤多代「アクティブラーニング型授業における教室外学修の実態：山口大学におけるフォトボイス調査をもとに」〔2015年度課題研究集会シンポジウムⅢ「アクティブラーニングの効果検証」〕『大学教育学会誌』Vol.38, No.1, 2016, p.86-90.

【論文】

- ・関 俊祐・加藤彰一「三重大学附属図書館ラーニングコモンズのゾーニングと，案内図に関する BIM 研究」『医学図書館』Vol.63, No.3, 2016, p.244-250.
- ・NAGASAWA Tayo. "Intervening Conditions Inside and Outside Libraries in Order to Build Collaboration between Teaching Faculty and Librarians in Education: Based on a Case Study of Earlham College." Kurbanoğlu, S. et al. eds. Information Literacy: Key to an Inclusive Society. Springer International Publishing, 2016, p.587-597.

【外部資金による研究】

- ・長澤多代「大学教育の質保証を視野に入れた図書館員による教員との連携構築のための戦略」科学研究費補助金・基盤研究 C，2015年度～2017年度.
- ・長澤多代（研究分担者）：「学習成果に結実するアクティブラーニング型授業のプロセスと構造の実証的検討と理論化」科学研究費補助金・基盤研究 B，研究代表者：京都大学高等教育研究開発推進センター 溝上慎一（2016年度～2018年度）
- ・長澤多代：大学教育学会・課題研究「アクティブラーニングの効果検証」（研究代表者：京都大学高等教育研究開発推進センター 溝上慎一）（2015年度～2017年度）

【研究発表（口頭発表）】

- ・NAGASAWA Tayo. "Intervening Conditions inside and outside Libraries in Order to Build Collaboration between Teaching Faculty and Librarians in Education: Based on a Case Study of Earlham College," The Fourth European Conference of Information Literacy (ECIL), Prague, Czech Republic, 2016.10.12.
- ・NAGASAWA Tayo. "Building Relationships between Teaching Faculty and Librarians in University Education: A Grounded Theory Based on a Case Study of Earlham College," Doctoral Forum, 9th International Conference in the Conceptions of Library and Information Science (CoLIS 9), Uppsala University, Uppsala, Sweden, 2016.6.26.

【招待講演】

- ・長澤多代「大学教員と図書館員が連携したアクティブラーニング：情報リテラシー教育を

中心に」〔基調講演〕富山大学附属図書館 FD セミナー「図書館を活用したアクティブ・ラーニング：情報リテラシー教育の課題」，富山大学，2017.3.8.

・NAGASAWA Tayo. "A Model of Collaboration Building between Teaching Faculty and Librarians in Education," Research Seminar, Information Studies, School of Business and Economics, Åbo Akademi, Turku, Finland, 2017.2.27.

・長澤多代「三重大学におけるラーニングコモンズの学習支援と教育支援」〔講演〕／内島秀樹，長澤多代，足立祐輔「ラーニングコモンズにおける図書館の資源を活用した学習支援」〔パネルディスカッション〕東海北陸地区国立大学図書館協会，平成 28 年度東海北陸地区国立大学図書館協会研修会，名古屋大学，2016.10.21.

・長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携」〔講演〕静岡県図書館協会／静岡県立中央図書館，平成 28 年度公立図書館等職員専門研修：大学・専門図書館研修，東海大学附属図書館清水図書館，2016.9.13.

・長澤多代「大学図書館の学習支援」〔研修（講師）〕筑波大学附属図書館，平成 28 年度大学図書館職員長期研修，筑波大学春日キャンパス，2016.7.13.

【その他】

・三重大学附属図書館「大学教育改革における大学図書館の役割：情報リテラシー教育」平成 28 年度第 2 回三重大学附属図書館 SD，2017.3.27.

・長澤多代「大学図書館が提供する学習支援サービス：大学教育改革の仕組みと大学図書館の機能の強化」平成 28 年度第 1 回三重大学附属図書館 SD，2016.6.2./6.3.